

プロシーディング

いきいき県民カレッジ協賛  
2007年度明倫短期大学 第2回公開講座・シンポジウム

介護予防最前線  
—老後の健康を支える歯・口腔の機能向上に向けて—

The Forefront of Nursing Care Precautions  
—Toward the Improvement of Dental /Oral Functions Sustaining Elderly Health—

日時：2007年10月27日（土）14：00～16：20

会場：新潟市民プラザ・NEXT21

コーディネーター 本間 和代  
明倫短期大学歯科衛生士学科教授

人は誰もが老いて行くが、それを食い止めることも若返らせることもできない。しかしながら、日本人の平均寿命は、昭和22年の男50.06年、女53.96年から平成17年には男78.53年、女85.49年まで延びて、超高齢社会に突入しようとしている。

平成12年、増加の一途をたどる要介護高齢者を、社会全体で支える制度として介護保険法が施行され、日本の社会保障制度は大きな転換期を迎えた。スタートから7年以上を経過し、種々の改正を経て、要介護状態を回避し、誰もが望む「健康で長寿を全とうする人生」を目指して、平成17年、「介護予防」のための地域支援事業が創設された。

そこで、国の方針に基づき、市町村が実施主体となって取組みが始まった地域支援事業における特定高齢者施策のプログラムについて、第一線で活躍している、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士の方々にその実践についてご講演いただいた。

地域支援事業における介護予防事業では、実施による効果が認められると判断された、①運動器の機能向上、②栄養改善、③口腔機能の向上の3つのプログラムが導入された。そのいずれも、目標とするところは「介護予防」であり、相互の取組みの連携が必要であると考え、各プログラムの実践を広く市民に公開し、ご理解していただく機会とするべく本テーマを選定した。ご参加いただいた多くの市民ならびに介護保険事業関係者の皆様方には、介護予防事業取組みの実際と、歯・口腔の健康の重要性を再認識していただけたものと考えてる。



演題と演者

講演1. 「健康に老いる」ために ～地域支援事業取組みの背景と目的～

講師 本間 和代（明倫短期大学教授 歯科衛生士・介護支援専門員）

講演2. 新潟市における運動器の機能向上事業の取組み

講師 加藤 円子（新潟市保健所健康衛生課 作業療法士）

講演3. 特定高齢者における「栄養改善プログラム」の実践

講師 金子 久子（社会福祉法人徳栄福祉会 ケアハウスサンライフ中野山 管理栄養士）

講演4. 胎内市「すこやかしあわせ教室」における口腔機能向上事業について

講師 高橋 純子（胎内市市民生活課 歯科衛生士・介護支援専門員）

講演5. 口腔機能向上のための訓練法

講師 江川 広子（明倫短期大学講師 歯科衛生士・介護支援専門員）